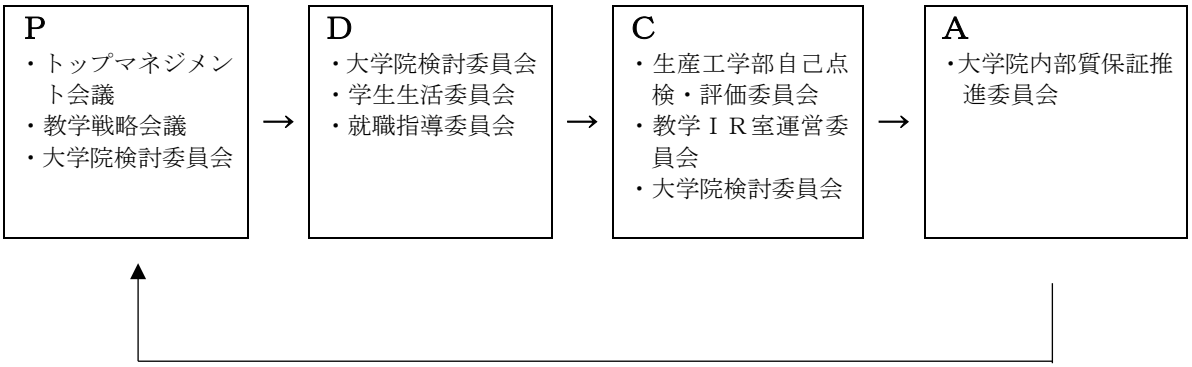
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院生産工学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科の内部質保証体制は，大学院内部質保証推進委員会が，生産工学部自己点検・評価委員会及び大学院検討委員会からの報告を受けて活動内容を把握し，自己点検・評価及び認証評価結果を中心に改善・改革すべき事項について検証・改善・改革を促し，その結果を専攻主任会議，大学院分科委員会へ報告する体制となっている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

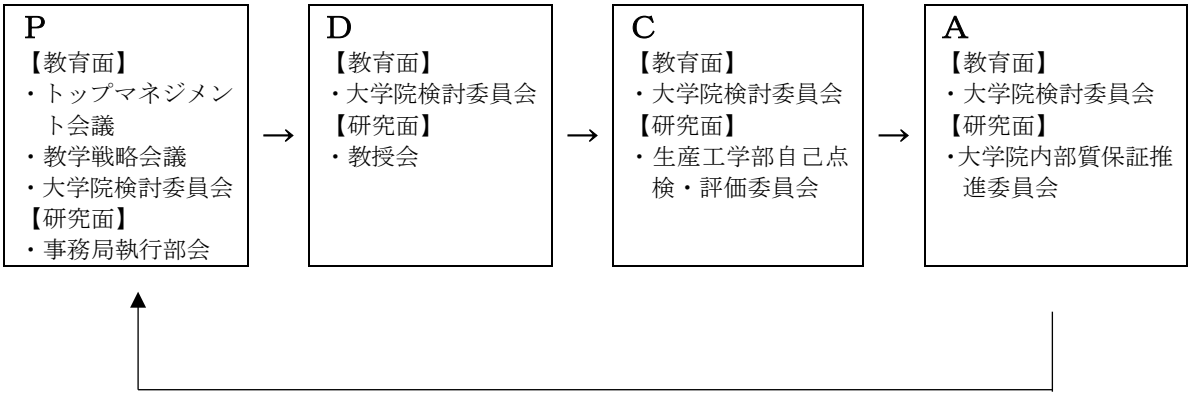
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，博士前期・博士後期課程において教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的考え方が示されていないとの提言が付されている。ま

た，建築工学専攻博士前期課程において特定課題研究の審査基準が未設定であるとの提言（是正勧告）が付されている。これらは教育課程の適切な運営と学習成果の質保証に関わる重要事項であり，基準２とも密接に関連するため，例えば，大学院生産工学研究科内部質保証推進委員会が主導し，教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的考え方を明示し，また，特定課題研究の審査基準の設定するよう，改善が求められる。

「博士前期・博士後期課程において教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的考え方が示されていない」については，大学院検討委員会で現状についての把握を行った。大学院検討委員会内のワーキングにて，改善案を検討して，大学院検討委員会及び大学院分科委員会にて，令和７年度中に改善予定である。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科では，大学院検討委員会において３つの方針の点検・評価を行い，社会的要請と照らし合わせて，学科の改組，新設及びカリキュラム改正の必要性の検討を行っている。それに向けて，大学院検討委員会にて，大学院生産工学研究科ＦＤ研修会を実施し，学問の動向や社会的要請の取組の把握を行っている。

研究面については，研究所運営委員会又は研究委員会が，研究組織の見直し等に関する計画を設定し，案件に応じて担当会議あるいは教授会で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は大学院内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

点検・評価の結果，改善・向上を図った事例は，現在，研究所の下に設置されている複数のリサーチ・センターについて，設置の必要性を検証することが挙げられる。

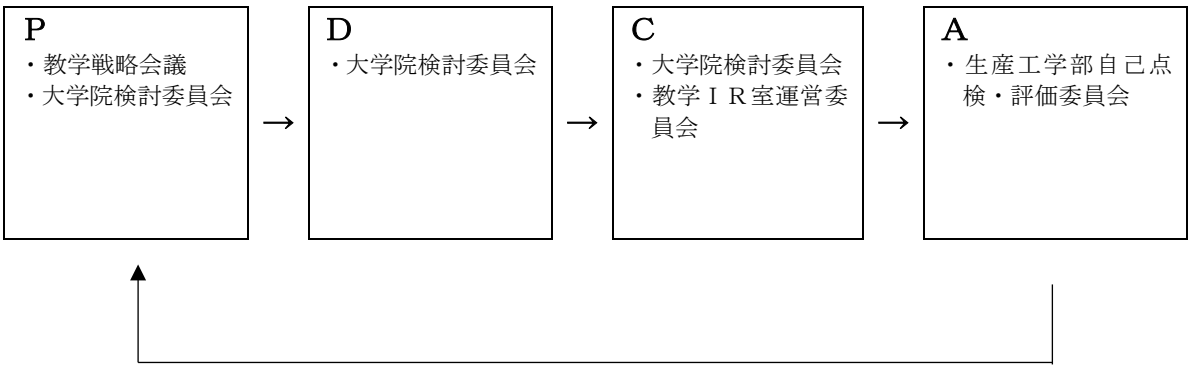
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

生産工学研究科では，教学ＩＲ室運営委員会を設置し，教育・研究の改善・改革に生かすため，教学に関する情報，資料のデータ収集及び分析を行っている。この分析結果に基づき，教育・研究の改善・改革を実行するために設置されている大学院検討委員会において，大学院生産工学研究科ＦＤ研修会での改善テーマを確認し，改善方策を検討することにより，内部質保証システムを有効に機能させている。

上記の全ての取組について，毎年実施している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科では，自己点検・評価の結果を基に，大学院検討委員会を中心として，大学院生産工学研究科ＦＤ研修会での改善テーマを確認している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「学位論文の審査基準について，生産工学研究科建築工学専攻博士前期課程では，特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができることを学則で定めているものの，特定課題研究の審査基準を定めていないため，これを定めるよう是正されたい」と提言（是正勧告）が付されているため，是正されたい。

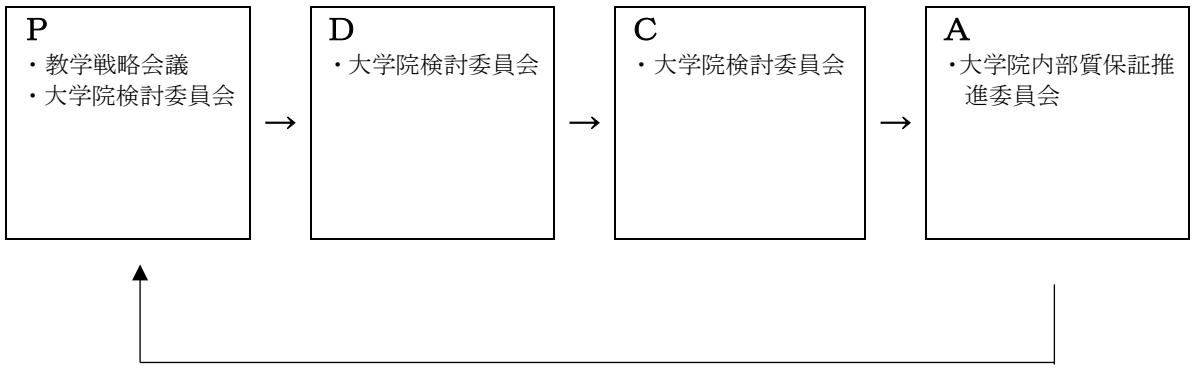
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，生産工学研究科博士前期課程及び同博士後期課程では，実施に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

「学位論文の審査基準について，生産工学研究科建築工学専攻博士前期課程では，特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができることを学則で定めているものの，特定課題研究の審査基準を定めていないため，これを定めるよう是正されたい」については，大学院検討委員会において報告し，大学院検討委員会内のワーキングにて，検討の上，大学院検討委員会で改善案をまとめ，令和７年度中に改善予定である。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科では，学生募集及び入学者選抜の適切性の検証及び改善・向上については，大学院検討委員会が中心となり，委員会に設置している大学院入学試験検討ワーキングなどでの検討を経て，専攻主任会議で常時検討・審議され，さらに大学院分科委員会に上程し審議している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

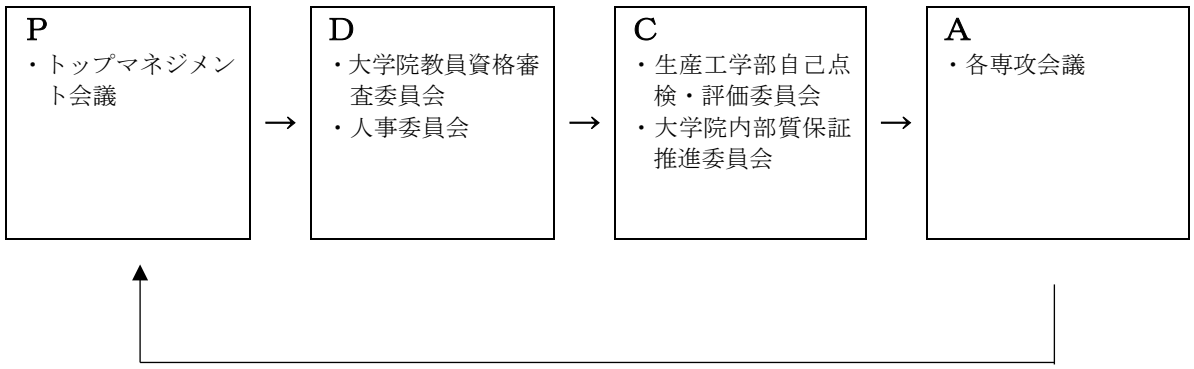
博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.29 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。

「博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.29 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。」については，現状，博士後期課程はほとんどが社会人特別選抜での入学者であることから，教学戦略

会議において，大学院の入学者増に向けたアクションプランを作成し，大学院検討委員会にて，博士前期課程からの進学者及び外国人留学生の受入れ増についての広報戦略の見直しを図るとともに，社会人特別選抜についても本学部卒業生，博士前期課程修了生の再入学の促進を図る施策を検討し，改善を行う。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

毎年度教員採用や昇格を検討する際に，各専攻主任が教員執行部に現場状況を踏まえた人事等の要望を説明した上で，教員組織編制方針に基づき教員人事計画及び教員配置計画の作成を行っており，その計画に基づき，大学院教員資格審査委員会・人事委員会・教授会で採用等について実行に移している。今後は，教員人事計画及び教員配置計画の内容について，教員執行部や事務局執行部等で構成されるトップマネジメント会議において，人数・年齢・性別等のバランスも含め，各専攻が継続的安定的に活動できる組織編制になっているかを確認した上で，採用を行うこととする。さらに，生産工学部自己点検・評価委員会において評価を行った上で，各専攻主任へフィードバックすることにより次年度の改善へつなげていく。

改善・向上を図った事例としては，非常勤講師数の削減を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

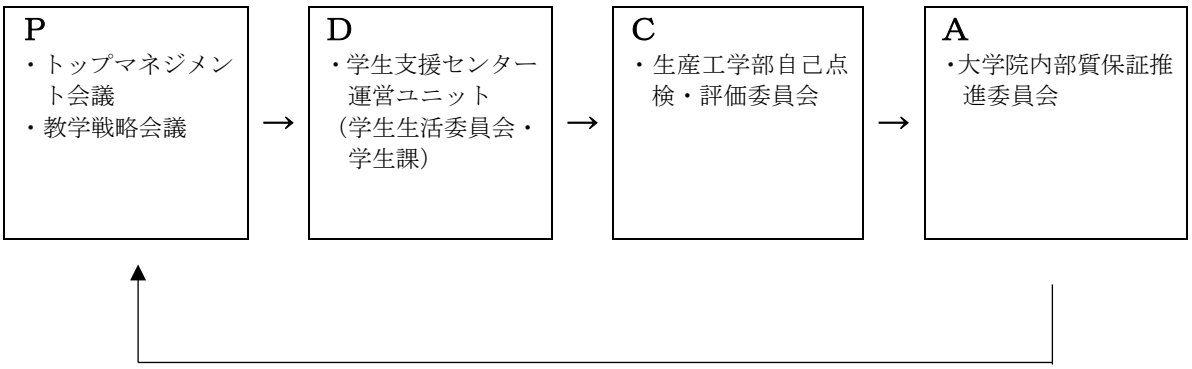
現状では専攻ごとに指導が行われているものの，全学的なガイダンスや統一的な研修制度がないため，業務の質や指導内容に専攻間で差異が生じる可能性があることは課題であり，改善

が求められる。
　その他は，学部を参照いただきたい。

　ＴＡに対するガイダンス及び研修について，令和７年度中に大学院検討委員会にて整備し，実施する予定である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

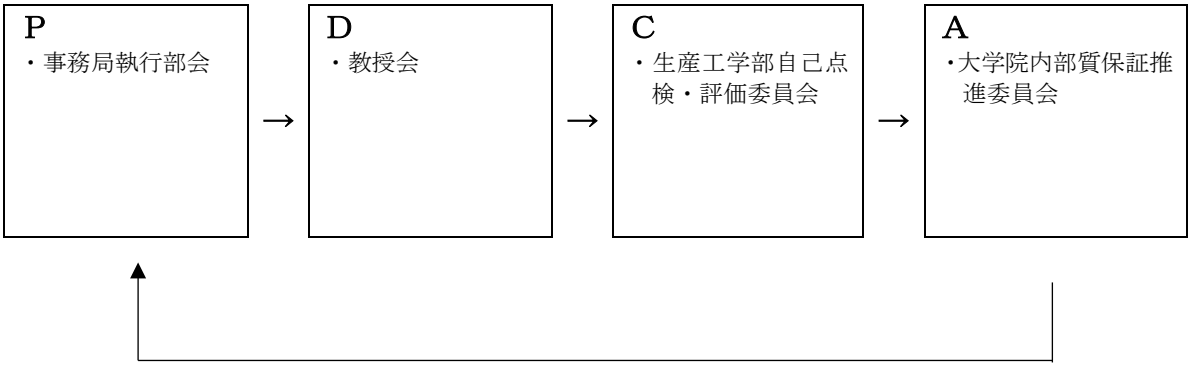
毎年度末，学生生活委員会幹事会にて，年度の取組の振り返りを行い，その結果を学部に報告している。それに基づき，学部から新たな課題を諮問されるとともに，学生生活委員会幹事会でも，新たな課題を設定している。例えば，今年度は，学生食堂の混雑緩和施策（券売機の導線整理，売店の弁当販売ブース拡大及びモバイルオーダーの導入等）のほか，学生の運動不足解消及びレクリエーションに寄与するものとして，利用率の低かった津田沼キャンパス多目的コートについて，令和８年度に向けて借用手続の簡便化や屋外用バスケットゴールを予算計上した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，研究所運営委員会あるいは研究委員会において，研究等環境に係る事項に関する計画を設定し，案件に応じて担当会議又は教授会で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は大学院内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

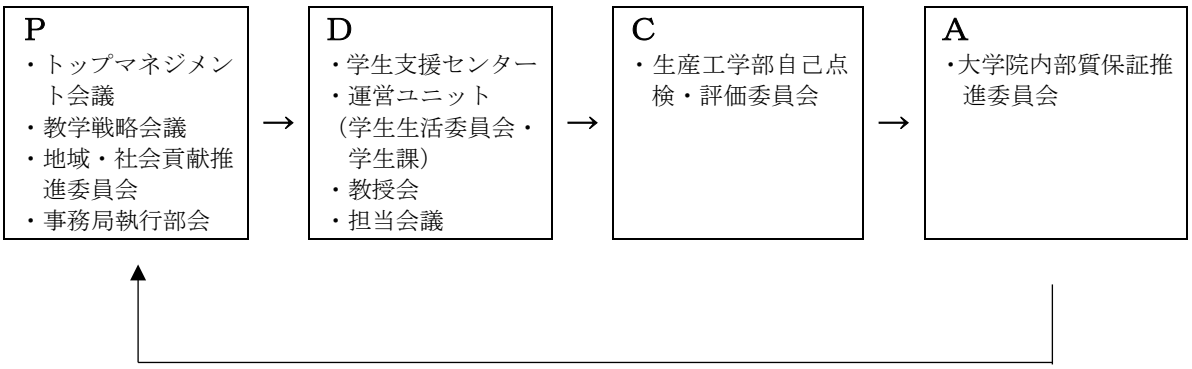
点検・評価の結果，改善・向上に向けた取組として，研究用施設である 32 号館，38 号館の研究環境について，部屋の利用方法や共用研究機器の整理について検証することが挙げられる。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，地域・社会貢献推進委員会及び生産工学部自己点検・評価委員会を中心に点検・評価を行っており，「習志野市の地域防災力向上に関する覚書の締結」による習志野市への防災協力や「ふなばし市民まつり」への出展協力の内容の改善を図った。

学生の社会連携・社会貢献については，生産工学部と習志野市との包括的連携に関する協定に基づき，習志野市から本学部への要請による清掃活動等への参加学生募集や近隣の中学校へ運動施設貸出等を行っている。また，学生のボランティア活動については，日本大学本部のボランティア活動推進センター運営委員会と連携し，ボランティアサークル及び一般学生に適切なボランティアの紹介やボランティア活動に関する研修会の案内を行っている。ボランティアサークルには参加したボランティア活動について，問題となる事例はなかったか等ヒアリングを行い，学生生活委員会と情報を共有する。特筆した事項があれば，学生生活委員会で業績を判断した上で，学部内の表彰候補として担当会議に諮るものとする。

研究面での社会連携・社会貢献については，研究所運営委員会において研究成果の社会への還元を目的としてアウトリーチ活動等の計画を設定し，案件に応じて担当会議で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は大学院内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし